

進路・学習通信⑧

河北台中学校 校長 竹内 幸明
進路指導担当 蔵谷 朋也

夏休みの学習の成果は?



9月2日に行われた「実力テスト」では、夏休みの学習の成果は発揮できたでしょうか。夏休みの課題として取り組んだ自学ノートを見ていると、「問題の解答でびっしり埋められ、学力定着のために活用している人」「苦手分野の要点を自分なりに参考書のようにまとめている人」もいました。しかし、みんなのテストの採点をしていると、「思うように学習が進まなかったのかな…?」と心配になるような解答もありました。思うような結果が得られなかったとき、あなたはその結果をどうとらえますか?

「〇〇点しかとれなかった…もうこんな教科は嫌だ!!」「この教科は勉強しても伸びない…」とネガティブに考え、努力をあきらめることは誰にでもできます。むしろ、

「今回のテストで自分の苦手なところがハッキリしたぞ!! 統一テスト前にわかってよかったです!!」と前向きにとらえてみませんか?有名な漫画「スラムダンク」の中に、主人公が必死にシュート練習をくり返すシーンがあります。全くシュートが入らず自己嫌悪に陥る主人公に対し、顧問の安西先生は「上級者への道のりは、『自分の下手さ』を知ることが第一歩である」という意味の言葉をかけました。受験勉強も同じです。「何がわからないのか?」「何が苦手なのか?」をはっきり自覚することが受験勉強の第一歩。まだ時間はあります!今回だけでなく、これまでのテストも見直し、自分の苦手なところを洗い出してみましょう。そして、一度まちがえた問題は、二度とまちがえない!!…という自信がつくまで、徹底的に何度もくり返し復習しましょう!!



第2回 進路希望調査について (9月4日 配布 ⇒ 提出締め切り 9月18日)

夏休みの間、高校の体験入学に参加した人も多かったと思います。夏休みを経て、**第2回進路希望調査**を行います。第1回進路希望調査とは異なり、出願の方法に「専願(私立のみ)」や「推薦」の記入欄を設けてあります。専願や推薦を希望する生徒は、この欄に○をつけて提出してください。「専願」や「推薦」については、次の説明を参考にしてください。分からないところや気になることがあれば、担任の先生に早めに質問しましょう。

「専願」について

私立入試に出願する際には「併願」と「専願」の2種類の出願方法があります。

「併願」⇒ 受験する私立高校に合格したとしても、別の高校へ合格が決まれば、そちらに入学することもできる出願方法。(いわゆる「すべりどめ」にあたる出願方法)

「専願」⇒ 受験する高校に合格したら、その高校へ必ず入学することを約束する出願方法です。合否判定で優遇されます。「専願」で高校に合格した時点で、原則、それ以降の入試を受けることはしません。
※公立高校入試は「専願」しかありません。公立高校に合格した場合には、その公立高校に必ず入学しなければなりません。

推薦入試について（一般入試との違いは？）



Q:そもそも、一般入試と推薦入試って何がちがうの？

A

どちらも高等学校に入学するための試験です。一般入試が国語や数学などの学力検査の結果（学校によっては面接も）と調査書などから合格者を決めるのに対し、推薦入試は学力検査を行わず、推薦書・調査書・面接などの結果を総合的に判断して合格者を決定します。なお、適性検査を行う学科・コースもあります。



Q:推薦入試って、だれでも受けれることがあるの？

A

推薦入試を受けるには、**校長先生を中心とする校内推薦委員会の審査を通らなくてはいけません。**

推薦委員会では、

「各高等学校の定める基準を満たしているか？」

「河北台中学校の定める基準を満たしているか？」

「河北台中学校の代表としてふさわしい行動がとれているか？」

を総合的に判断し、審査を行います。

また、推薦入試を希望する際に最も大切なのは「何が何でも〇〇高校へ行くぞ!!」という強い意志です。よって、推薦で受験できるのは国公私立の中から1校のみとなります。「私立の推薦がだめだったから、次は公立の推薦を…」ということはできませんので注意して下さい。

【各高等学校の定める基準】

各高等学校によって若干のちがいはありますが、おおむね以下のような基準となります。

- ①学業・人物ともに優れている者
- ②部活動・生徒会活動で優れた実績を有する者
- ③入学の意思が強いこと

【河北台中学校の定める基準】

①志願の理由が明確であること

→なぜ、その学校（学科）へ進みたいのか？その理由がはっきりとしていること。そして、入学への意志が強いこと。

②志願する学科に見合った学力を有している

→合格＝ゴールではありません。大切なのは、「入学後にどんな学校生活を送るか」です。その学科に見合った学力が身についていることも重要な条件です。

③生活態度・学習態度ともに優れている

→あいさつ、時間を守る、身だしなみなど、基本的な生活習慣が身についていること。授業はもちろん、ベル学や朝学習にも真剣に取り組む、課題をきちんと出すなど。

④学校行事や生徒会行事に前向きに取り組む

→「会長になった」「委員長になった」ではなく、自分の仕事・役割に「どう取り組んだか？」が大切です。

※4月8日「進路集会」にて説明済み

【推薦入試を希望する前に...】

推薦入試について、「受験すれば全員合格するんじゃない？」とか、「受験の機会が増えてラッキー」などと安易に考えてはいませんか？推薦入試は、「出願まで」も「出願してから」も「入学してから」も、たくさんのハードルを越えなければならないことを正しく理解しておきましょう。

- ① 出願まで ⇒ 日々の学習（授業や宿題、受験勉強）と並行して、たくさんの書類の作成（作文多数）
- ② 出願してから ⇒ 入試対策+面接対策（一般入試よりも1か月ほど先に入試となります）
- ③ 入学してから ⇒ 推薦入試で合格を得た生徒は、入試時の条件を守らなければなりません。

（例：部活を3年間続けるなど）

もちろん、準備や出願をしたからといって、「校内で推薦される」「合格できる」とは限りません。もし、推薦されなかったり、不合格になったりしたときに、すぐに一般入試に気持ちを切り替えることができますか？推薦入試を希望する前に、以上のことを行っておきましょう。